

(新年のごあいさつ：機関誌「ICTCA本部協会報」(2011.1 VOL12) から)

中堅・中小企業に、「ICTシステム保守サービス」で貢献

理事長 佐々木茂則
(協立情報通信㈱ 代表取締役)

会員の皆様には、つつがなく新年をお迎えになりましたことと、お慶び申し上げます。

2010年は、首相交代にはじまり、政治・経済や国際問題等、なにかと難題の多い年でありました。

さて、『2010年版 中小企業白書』によれば、中堅・中小企業が競争力を強化するためには、企業経営でのICT・情報の利活用が必要不可欠、とありますが、積極的な導入活用に進んでいない状況です。しかし実情は、NGNの利用促進にはじまり、着々と情報インフラの進化を目の当たりにするところです。

こうした状況を踏まえ、我がICTCAとしてもLAN認定制度に続き、『NGN活用ガイドブック2010』の発刊による活用研究等努力していますが、好結果を見るに至っておりません。しかし、業界の未来を考える時、どうしても取り組むべき課題であり、ここは辛抱強く諦めず進んでいくべきところと考えます。

ところで、本年の大きな課題として、二つございます。まず一つには、一般社団法人への移行対応の問題がございます。昨年の第56回定時総会で一般社団法人形態への移行が承認されたことを受け、今年国への申請を行う予定であります。定款の変更、組織の見直しなど、多くの課題をクリアしなければなりません。これまでと同様に、会員・業界の発展とともに、進化する情報化社会の中で果たすべき役割も十分に認識をして、本部、地方本部が一体となって進めてまいりたいと思います。

二つには、本来業務領域(LAN領域)における保守の問題があります。地方本部より問題提起された本件は、保守サービスを業とする我々にとって最重要課題であると私は認識しております。財務企画委員会に委嘱、理事会および、十地方本部の集会を得て精力的に進めていただき、この1月には『中堅・中小企業のICT・情報活用とは ～情報通信システム保守サービスのすすめ～』として、お届けできることとなりました。内容は、中堅・中小企業のユーザー向けとした、LAN領域を安心・安全に利用するための、ICT・情報活用の重要性、工事担任者の紹介、ICT専門業者との契約によるサポート体制(システム保守サービス)の重要性を説いております。保守促進に役立つことを重視すると同時に、今般の一般社団法人化を機に、業界の復活が図れることを期待するところです。

一方、情報通信業界は、今後の日本経済で最も成長性のある業界とされているため、他産業か

ら次々と参入が続いております。クラウドをはじめ、ユーザーにとっては選択肢が増えることとなり、我々にとっては選択されるという厳しい局面もございます。その中で会員企業がユーザーから選ばれ、信頼を勝ちうる良いシステム保守サービスを提供することで、サービスの進化が図られます。そして「個客」との関係性が進み、さらなるサービス創造へ…という考え方により、次の関係へと進むことになるのではないのでしょうか。

いずれにしても、会員企業が未来を実現するための基盤となりうる協会を意識に置いて、諸策に取り組んでいるところです。

本年は兎の年。「兎の上り坂」の言葉のように、物事がしっかりと進んで業界が活発化に向かう年となりますことを、ご祈念申し上げ、年頭のご挨拶と致します。